

天文教育

7

2021

Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy



<投稿>内惑星の華麗なダンス／子どもが描く太陽の色 ほか
<その他>2021 年日本天文教育普及研究会年会のお知らせ（第 3 報）
／若手奨励賞の募集について

一般社団法人 日本天文教育普及研究会

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

なお原稿の投稿は、編集部から依頼した場合を除き、原則として当会会員の方に限らせていただきます(共同執筆者に会員を含む場合はこの限りではありませんが、投稿は会員の方からお願いいたします)。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクト(要旨)には英文も付けてください(英文は審査通過後に追加可)。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事や、さまざまな天文教育や社会教育などの実践記事。分量は刷り上がりで6~10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告など。分量は刷り上がりで2~4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1~2ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください(写真のみでも構いません)。
7. **情報コーナー(各種会合・イベントの告知など)**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日(奇数月下旬)にご留意ください。

・**締め切り**：1は随時受け付け、2~7は偶数月(発行の前月)15日です。投稿先は post@tenkyo.net です。

・本誌に掲載された記事は、1年後以降に当会 Web サイトにて pdf ファイルの形で一般に公開することを予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡ください。

・**広告掲載**を希望される方は事務局 (jimu@tenkyo.net) までお申込みください。掲載料は B5 判 1 ページ ¥20,000、半ページ ¥12,000、1/4 ページ ¥7,000、チラシの折り込み ¥20,000 です。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますようお願いいたします。

- ・原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートが当会 Web サイト (<https://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします。執筆上の留意点なども記しています。
- ・十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいたたく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の言葉

天空を架ける暗黒帯のアーチ

2021年6月8日 02h36m, Canon EOS R5, EF8-15mm F4L
フィッシュアイ USM, F4, ISO10000, 60秒露光, 撮影地:
長野県木島平村 撮影・解説: 大西浩次

初夏の深夜、北東の低空のペルセウス座やカシオペア座付近の淡い「秋の天の川」が天頂に向かって伸びて、はくちょう座へとたどり着く。そうして、「夏の天の川」は、天頂付近から南西の空へ一挙に流れ下る。暗い星空のもとでは、まさに天空に架かる淡い光のアーチとして見えるでしょう。ところで、皆さんは、この天の川が、私たち銀河系をその内部から見た姿であることはご存じでしょう。

しかし、天の川をよりよく見てみると、淡い光の帯が、はくちょう座付近から左右に分かれて流れてゆくように見えるでしょう。そうして、星が無い領域(Rift=裂け目)がはくちょう座の中央付近から始まり、わし座、へびつかい座、たて座と次第に幅広くなり、いて座付近

で最も広くなり、南天のケンタウルス座、みなみじゅうじ座へと続く様子が分かるでしょうか。ちなみに、はくちょう座付近の暗黒帯は、Cygnus Rift とか Northern Coalsack (北の石炭袋) と呼ばれ、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」では、まさに、主人公が北の石炭袋付近で銀河鉄道に乗り、(南の)石炭袋(みなみじゅうじ座)で下車するという、巨大な暗黒帯(Great Rift)に沿った銀河鉄道の旅になっているのです。

ところで、この巨大な暗黒帯は、私たち太陽系のあるオリオン腕と、一つ内側のいて座腕の間にある多くの分子雲たちが、その背後の星たちを隠すことで浮かび上がって見えているのです。そうして、はくちょう座付近には、オリオン座の星形成領域の10倍以上の質量を持つ巨大な星生成領域(はくちょう座 OB2)が隠されています。遠い将来、この領域で、オリオン座大星雲のように美しく輝く星雲と明るく輝く星団が見えるようになるでしょう。こんなことを想像しながら、夏の天の川を眺めてみるのも楽しいですね。